

AWA

2012 Vol.19

awa onna akindo jyuku



おんなあきんど塾

AWAおんなあきんど塾・徳島市主催

特集

第2回 きらめく女性大賞

最終選考会・表彰式開催

徳島を元気づけ、地域の発展を願っている
きらめく女性たちをご覧ください!!

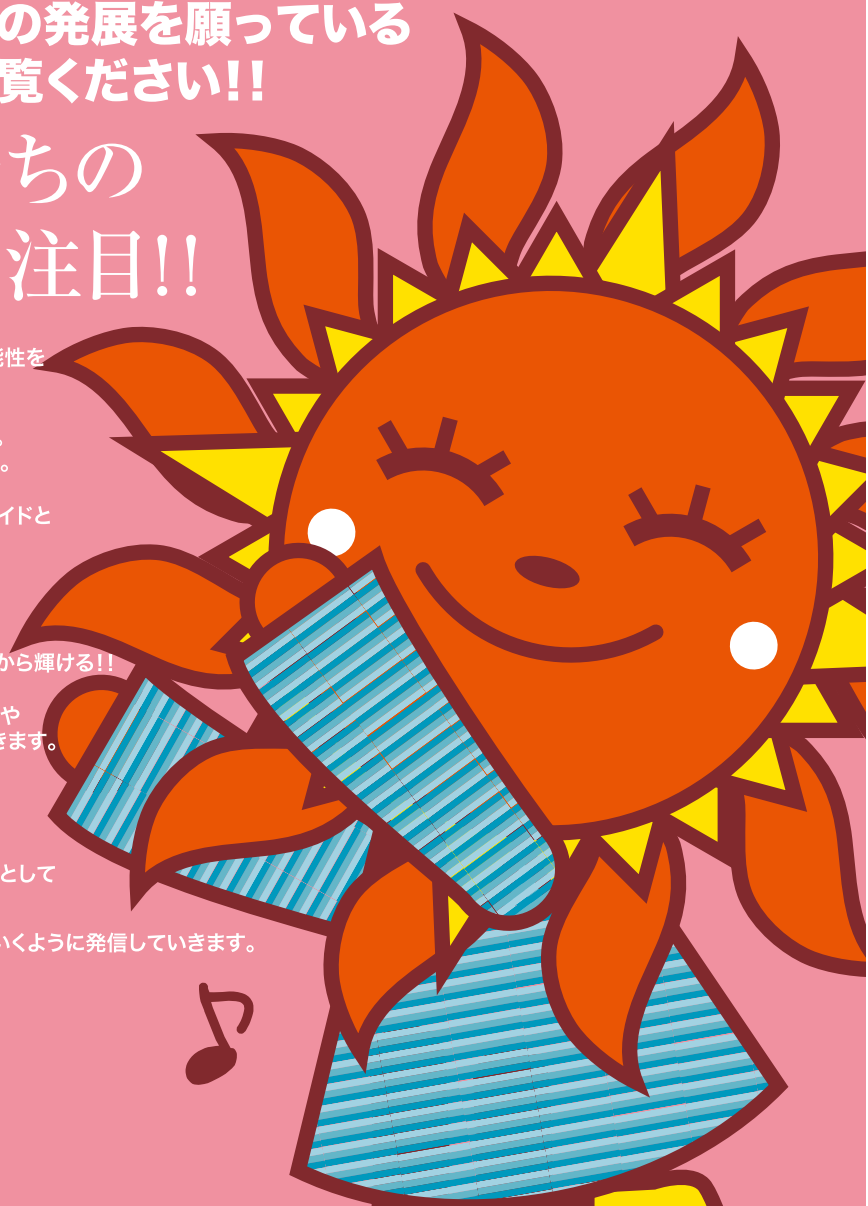
元気な女性たちの
元気な発言に注目!!

- 「徳島でもできるんだ!」と子どもたちが自分の可能性を信じられる環境づくりを目指して。
- 女性設計士として、徳島の街並みを素敵な空間に。「素敵な徳島」のお手伝いができればうれしいです。
- 若者に伝えたいこと「一生ものの資格を持ち、プライドと感謝の気持ちをもって一生働く」
- 美術館は決して敷居が高いものではなく、日常気軽に行ける魅力ある空間だと考えます。
- 子どもがいるからチャレンジできる、子どもがいるから輝ける!!
- 皆様の役に立ち、また楽しんでいただけるイベントや地域を元気にできるようなイベントを開催していきます。
- 女性の日常的な視点を活かし、便利で安心して美味しいと思える商品づくりを目指します。
- 県内には二人しかいない女性泌尿器科医のひとりとして女性の悩みの問題解決の手助けを頑張ります。
- 徳島の雑穀文化がもっと浸透し、生活に根付いていくように発信していきます。

経済と文化の融合2012

津軽三味線 [高橋静山流 静山会 師範]

戸村恵里さん



第2回

きらめく女性大賞

～最終選考会・表彰式開催～



きらめく女性たち、きらめく徳島へ

AWAおんなあきんど塾とは、徳島の経済活性化のため、知恵と行動でその方策を探り、かつ取り組みを推進するために、平成7年に徳島市が呼びかけて結成された女性経営者の集まりです。同塾では、徳島市と協働して女性企業家・経営者を支援し、活力あるまちづくりを目指してさまざまな活動を行っています。

そのひとつとして、昨年度に創設しました「きらめく女性大賞」を、今年度も開催いたしました。これは、さまざまな分野で頑張っている女性にスポットを当てることで、徳島を元気づけ地域経済の発展につなげようと一生懸命に仕事をしている女性の活躍を応援するものです。今年も最終選考会へと進んだ9組のプレゼンテーションと公開審査を平成24年2月18日(土)の午後5時よりふれあい健康館ホール(徳島市生涯福祉センター)で開催しました。颯爽ときらめいている女性たちの発表を誌面でご覧いただき、徳島の輝く未来を感じてください。



- 女性建築設計者として、女性らしい感性や家庭を大切に
する思いで、徳島の経済に貢献していきたいと話す。
アトリエ・クー代表 建築士 杉本真理子さん



- 都会でなくても「徳島でもできるんだ!」と
子どもたちが自分の可能性を信じられる環境を
つくってきたい。
エアラインクラブ徳島 代表 市原香奈さん



- プレゼンテーションの最後に、子どもたちへの
「熱い思い」をアカペラで唄った。
ベビーさろん かしの木 園長
橋口浩子さん



- 徳島の雑穀文化について、これからも
発信していくと思いを語る。
横関食糧工業株式会社
雑穀アドバイザー
自然食 アトリエ・ミレット代表 横関実香さん



ごあいさつ

徳島市長

原 秀樹

「女性と仕事」というテーマで開催いたしました「第2回きらめく女性大賞」は、予想をはるかに超える応募があり、最終選考会にも多数の方々にご来場いただきました。

個性的で活力と魅力にあふれたまちづくりが求められている昨今、生き生きとした女性の活躍をまちの活性化につなげようとする意欲的な取り組みに、大きな注目と期待が集まっていることを改めて実感しております。

徳島は、女性の社長比率が全国平均を大きく上回り1位という結果にも表れておりますように、女性が元気で、女性起業家が育ち、成長する土地柄であります。こうした素晴らしい結果を長年維持し続けているということは、まさに、「阿波おんな」のパワーと努力の賜物であり、女性ならではの豊かな感性と柔軟な発想力を存分に活かされ、幅広い分野でご活躍いただいております皆さまに、深く敬意を表する次第でございます。

最終選考会では、多数の応募の中から1次選考をみごと通過された皆さまの、生き生きときらめいている「阿波おんな」の姿を見せていただきました。どの方のプレゼンテーションも甲乙付け難く、未来の徳島を切り拓き続ける、あふれんばかりの情熱と行動力を実感したところであり、今後とも全国に「阿波おんな」の魅力を発信し続けてほしいと思います。

結びに、「第2回きらめく女性大賞」の開催にあたり、多大なるご尽力をいただきましたAWAおんなあきんど塾のキャストの皆さま、審査委員の方々、関係各位に心から感謝申し上げますとともに、生き生きと輝く徳島の女性の皆さまの更なるご健勝とご活躍をご期待申し上げます。

プレゼンテーション・公開最終選考会

- 泌尿器科は女性にとって行きにくい診療科かも知れませんが、ぜひその敷居を低くして、悩んでいる多くの女性の問題解決の手助けができれば。
徳島大学病院 泌尿器科 講師
AWAサポートセンター
医学博士 山本恭代さん



- 女性の日常的な視点で、お客様に便利で安心して美味しいと思ってもらえる商品づくりを目指します。
四国化工機株式会社
食品事業部 事業経営企画室
係長 宮崎稔子さん



- 徳島県内の皆様の役に立ち楽しんでいただけるイベント業務を企画することに日々邁進しています。
NHK徳島放送局 放送部
編成・事業 平田 桂さん



- 美術館に気軽に足を運んでもらえるような、様々なイベントを企画・運営し、来館のきっかけづくりを推進して行きたいと思いを語る。
大塚国際美術館 企画・広報部
係長 土橋加奈子さん



- 看護師の知恵と知識を生かして、介護保険の利用時期を少しでも遅らせるよう地域で助け合って生きていきたいと元気に話す。
看護師 滝花佐智子さん





審査委員からの感想

きらめく女性たちの熱意溢れるプレゼンテーションが終了し、難しい審査をされた7人の審査委員の感想を一言うかがいました。(順不同)

社団法人徳島新聞社
理事総務局長

米田 豊彦氏

皆様から随分勇気とパワーをいただきました。皆様一様にライフワークを見つけてられていて、大変羨ましい思いで審査いたしました。これからも徳島の活性化に尽力していただきたいと思います。

NHK徳島放送局 局長

萩原 秀信氏

皆様殆ど僅差で、審査委員一同苦勞致しました。今日プレゼンテーションと共に振り返った、ご自身の日々の取り組みを胸に、明日以降、また頑張っていたければと思います。

公益財団法人
徳島経済研究所専務理事

田村 耕一氏

選ばれた皆様を審査するにあたって、本当にパワーとエネルギーを使いました。これからも新しい事にどんどんチャレンジしていただきたいと思います。大いに期待をしています。

四国放送株式会社
取締役報道制作局長
兼 報道情報センター長

岡本 和夫氏

審査委員ですので、審査させていただかなければならなかったのですが、プレゼンテーションに魅せられてしまいました。皆様本当に輝いておりました。徳島の皆様の夢を持つきっかけになればと思います。

社団法人徳島青年会議所
直前理事長

大島 美里氏

審査委員室で本当に悩みに悩み抜いた末に、このような結果となりました。今後も徳島の発展のために、是非とも新たな視点から、未来に向けた発信を続けていってください。

第1回きらめく女性大賞
受賞者

内藤佐和子氏

徳島の未来や次世代の事を具体的に考えている方々ばかりで、非常によいプレゼンテーションだったと思います。とても感動いたしました。皆様、本当におめでとうございます。

徳島市長

原 秀樹

各賞を受賞された皆様、本当におめでとうございます。皆様とても素晴らしい女性ばかりで、徳島の男性もきらめく女性たちに負けないよう、もっと頑張らなければいけないと、改めて感じました。



完成度の高い
プレゼンの数々に
敬意を表します

第2回きらめく女性大賞
審査委員長

AWAおんなあきんど塾 代表
(株)とさわ 代表取締役専務

高畑富士子

プレゼンターの皆様、本当にお疲れ様でした。何よりも皆様の今日に至るまでの準備と、そしてたくさんの発表したいことを短い時間にまとめた努力に敬意を表します。

私たちが昨年度に創設しました「きらめく女性大賞」が好評のうちに2回目を迎えました。今回はどんな発表内容なのだろう、どんな結果になるのだろうと、たいへん楽しみにしておりましたが、私の予想をはるかに超える完成度の高いプレゼンテーションが続出し、感銘を受けました。プレゼンターの皆様の熱意と努力を、本当にひしひしと感じました。質の高いプレゼンテーションを聞かせていただきありがとうございます。

これから先、この「きらめく女性大賞」を3回目、4回目とさらに進化した形で開催して、たぶんまだまだ多く眠っているきらめく女性たちを発掘・発見して、徳島の皆様に広くきらめく女性たちを知っていただきたいです。

そして、そんなきらめく女性たちをたくさん生み出せるAWAおんなあきんど塾であればいいなと思っています。

審査委員の皆様、色々な準備不足がございましてご迷惑をお掛けいたしました。本当にありがとうございました。

また、寒い雪の中ご来場下さった観客の皆様にも、感謝の意を述べさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

来年の「第3回きらめく女性大賞」開催にむけて、私たちAWAおんなあきんど塾も本日の受賞者の皆様に負けないう情熱を持って取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。



第2回「きらめく女性大賞」大賞に建築設計事務所アトリエ・クー代表の杉本真理子さん＝建築士、佐那河内村下＝が選ばれました。杉本さんは佐那河内中学校で生徒に住宅の設計や模型作りを教え、もの作りの楽しさや設計の面白さを伝えています。審査では、女性建築士としてのまちづくりへの杉本さんの熱い想いが評価されました。

また、大賞以外の受賞者は次の皆さん。徳島市長賞＝山本恭代さん（徳島大学病院泌尿器科医師）、徳島新聞社賞＝横関美香さん（自然食アトリエ・ミレット代表）、NHK徳島放送局局長賞＝橋口浩子さん（ベビー・さろんかしの木園長）、四国放送賞＝市原香奈さん（エアラインクラブ徳島代表）、あきんど塾賞＝滝花佐智子さん（看護師）、土橋加奈子さん（大塚国際美術館企画担当）、平田桂さん（NHK徳島放送局イベント担当）、宮崎稔子さん（四国化工機食品事業本部社員）の皆さんのプレゼンテーションと受賞の喜びをご覧ください。

プロフィール／杉本真理子（すぎもとまりこ）さん

1964年生まれ。神奈川大学建築学科卒。埴淵建築設計室、小西英利建築設計室を経て、独立。二級建築士。徳島県建築士会、建築学会に所属。個人住宅のほか店舗や歯科医院など幅広く建築設計に携わっている。

女性設計士として、 徳島の街並みを素敵な空間に。 「素敵な徳島」のお手伝いが できればうれしいです。

アトリエ・クー代表
建築士 杉本真理子さん

杉本さん（左側）
右側はサポートスタッフの
アトリエ・クーの坂野洋子さん



アトリエ・クーは、女性中心の建築設計事務所です。佐那河内の古民家を改装し、動物達に囲まれながら過ごしています。女性建築士としてまちづくりにかける思いや、徳島に素晴らしい建物と人づくりを提案しようと頑張っている、私達の事をお話したいと思います。

建築の世界には女性も多くなってきましたが、まだ偏見の多い世界だと感じます。その中で私達の事務所は、女性目線というよりも、女性である自分達の個性を活かした、私達らしい設計を心掛けています。また私自身の経験から、子育てをしながらでも女性が夢を得る環境を、スタッフに与えてあげたいと思っています。アトリエ・クーは住宅の設計以外に、店舗や医院などの設計も手掛けています。設計時は内部空間の使いやすさや豊かさを大切にしていますが、外観は建て主の思いを叶えながらも、街並みに対する配慮を心掛けています。私が設計する建物は小さなものですが、それでも街並みに花を添えたり、ホッと出来る空間を提供する事で、ちょっぴり幸せな気分になれる人がいればいいなと思います。最近では和のテイストを持った家も、私達のテーマのひとつになってきました。

しかし徳島のまちづくりを進めるためには、建築士の仲間と一緒に動かなければなりません。ひょうたん島周辺のまちづくりでは、建築士会のメンバーとしてひょうたん島クルーズを行ったり、勉強会やワークショップを開催したり、商店街を中心としたランドデザインに取り組んだりしています。まちづくりに大切な事のひとつに「建物は建てるだけではなく、そこには人づくりがないとまちづくりにはならない」という点がありますが、そこが一番難しい事だと思っています。人づくり、という事で言うと、去年から学生達に接する機会を増やしています。中学校の子供達に住宅の設計と、それに必要な材料を見てもらったり、模型の作製の実習。普段の家族との生活を考えたら、環境や景観の事も話しました。また、文理大学で、東北の街再生のワークショップをしたり、徳島大学の学生を事務所に受け入れて色々遊んでいます。女性

建築士として、収納の事などの勉強会も行いました。

昨年新築した佐那河内小中学校の校舎にあたっては、佐那河内教育委員会の方とお話をして、村に住民参加の建設を提案しました。こちらは建築士会の中に佐那河内プロジェクトチームを立ち上げて住民の意見を聞くという、徳島県初の校舎コンペを行いました。実はこの時から徳島に素敵な建物が欲しい、という気持ちが大きくなっており、また、公共的な建築の在り方にも色々な思いを持つようになりました。徳島に素晴らしい建物と、賑わいのあるまちづくり・人づくりを。これが私共の次なる夢です。市民が関わることで、良い公共建築物ができると思います。しかし、市民参加による公共建築物づくりは、まだ数多く行われていません。行政だけに頼らず、徳島で生活する建築士として市民の声が届くシステムを作りたいと考えています。まだ動き出したばかりですが、女性建築士として素敵な徳島のまちづくりのお手伝いが出来ればと思います。行政と民間がつながって、いかに面白いことをやって若者を盛り上げ、徳島を盛り上げていくかが重要だと思います。

●受賞の喜びとこれからの活動

もらった本人がすごくびっくりしています。きらめく女性大賞に応募させていただいた理由は、アトリエ・クーのスタッフ一同が徳島に対して抱いている、熱い気持ちを皆様に伝えたいという思いからでした。今回の賞を受け、自分の仕事は元より、お客様のために一生懸命頑張りたいと、改めて思いました。大賞の名に恥じないような仕事を、これからも続けていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

県内には二人しかいない女性泌尿器科医のひとりとして女性の悩みの問題解決の手助けを頑張ります。

私は尿漏れや膣から子宮や膀胱が飛び出てきてしまう骨盤臓器脱といった女性の骨盤底疾患の診断・治療に取り組んでいます。この疾患に悩まされている女性の患者さんは、2007年の調査では305万人もいましたが、残念ながら病院に行く人は23%しかおりません。泌尿器科という名前が敷居を高くしてしまっているのか、年齢のせいだからとか、病気ではないからとあきらめてしまっている方が多いのが現実です。現在、日本の泌尿器科医は全国で約7750人いますが、そのうち女性は350人程度しかいません。特に地方には非常に少なく、徳島県では2人のみです。2年前に後輩が増えてくれました、それまではずっと1人の状況でした。とはいえ、人数は少ないながらも全国の女性泌尿器科医のネットワークがありますので、今後はこれをつかって後輩や若手をどんどん育成していきたいと考えています。このような状況を受けて、徳島大学病院では女性泌尿器科外来を開設しました。毎週金曜日、完全予約制で行っています。スタッフはすべて女性で対応しており、開設から約3年半経ちましたが、初診患者は300人を超えて、いまだに対応や治療法が悪かったというアンケート結果はいただけておりません。今後は潜在的な患者さんを発掘して、治療していきたいと思っています。

腹圧性尿失禁の治療法には骨盤底筋体操やダイエット、薬物療法などがありますが、一番有効なのは手術療法です。30分程度で終わる体への負担も少ない方法で、2009年から徳島大学病院で導入して、年々手術件数も増加しています。骨盤臓器脱についても、患者さんの体にかかる負担がより少ない手術もありますので、こちらも徳島に導入していきたいです。

今まで子どもをもちながらフルタイムで仕事を続けてきました。時間外も十分に働けないこともあり、ジレンマを感じたこともありました。専門分野で強みを伸ばしていくことを大切にしています。臨床研修制度により激減した徳島大学の研修医に対応するために卒後臨床研修の初代専任教員として、脳外科の女性医師と2人で配置され、環境の改善、内容の充実を図り、研修医数の増加に貢献したこともあります。

ずっと臨床医として仕事をしてきましたが、現在は大学全体の女性研究者を増やす取り組みにも関わっており、仕事の幅が広がっていくことを楽しんでいます。今後は、泌尿器科医であることを生かして災害時の排泄ケアなどにも取り組んでいきたいと思っています。

徳島市長賞



徳島大学病院 泌尿器科 講師
AWAサポートセンター 医学博士 山本恭代さん

●受賞の喜びとこれからの活動

この度はどうもありがとうございました。病院の関係者の皆様、そして家族の温かいサポートがなければ、ここまで来れなかったと思います。本当に感謝しています。治療を受けられた女性の皆様、悩みから解放された折に発する安堵の言葉には、毎回顔がほころびます。皆様の泌尿器科に対する敷居が少しでも低くなり、悩み方々の助けが来てほしいなと思っています。

徳島新聞社賞



横関食糧工業株式会社
雑穀アドバイザー
自然食アトリエ・ミレット代表

横関 実香さん

徳島の雑穀文化がもっと浸透し、生活に根付いていくように発信していきます。

私は当社アンテナショップ「自然食アトリエ・ミレット」のメニュー企画運営管理を担当しています。まずはこの「自然食アトリエ・ミレット」についてお話ししたいと思います。

今から7年程前、私は社内の女性3人とミレット事業部を立ち上げました。元々このアイデアは、当社で扱う粉製品や雑穀製品、また業務用のパン粉といった製品を、新しい形でお客様に提案したいという所から始まりました。立ち上げ時期には雑穀ご飯が少しずつ広まっておりましたので、当社商品から雑穀を選び、雑穀を知ってもらう店を作ろうと決めました。

女性が一人で気軽に立ち寄れる惣菜店をコンセプトに、雑貨店のような内装で20～30代の女性をターゲットにしました。現在は若い女性だけでなく年配の方、また健康志向の男性の方にもご来店いただいております。

ミレットがオープンした前年、日本雑穀協会が設立され、雑穀資格制度が出来ました。厳しいアドバイザー認定講習と試験で、雑穀の栽培や加工を始め、調理方法や栄養面、日本の食文化における雑穀の役割など幅広い分野について学び、雑穀アドバイザーとなった私は二つの事を見ました。

まず、雑穀は地方の財産であるという事です。グローバル化が進み、あらゆるものが標準化されている今の時代で、雑穀は代々農家の方が種を残してきた結果、各地の環境に応じた品種が残っています。この事に私は非常に感動いたしました。地方の個性を持つ、地方文化の象徴ではないかと。

もう一つは、徳島はやはり「あわ」の国だったという事です。雑穀を使った料理を食べたり目にする事が多々ある徳島では、雑穀を食べる事は特別ではなく、自然と食生活に溶け込んでいます。これは全国的にも珍しく、また誇れる事だと思います。2010年3月、徳島大学理蔵文化財調査室から、徳島市の遺跡調査で、雑穀は稲と共に弥生時代から集落の食生活を支える重要な作物であった、という発表がありました。これは徳島の旧国名の阿波の起源が雑穀の粟である、という説の裏付けではないでしょうか。

徳島が雑穀の重要性を忘れないよう、そして雑穀といえば徳島と言われるように、県内外それぞれに徳島の雑穀食文化を発信しつつ、その奥深さを感じるイベントを企画したいと考えています。

それによって生産地である徳島山間部の地域を活性化させながら、最終的には、山村の荒れ畑を雑穀が実る豊かな畑にして、環境問題の改善に努める。私の夢はまだ大きく広がっております。

●受賞の喜びとこれからの活動

素敵な賞をありがとうございました。自分でも驚いています。雑穀について少しでも興味を持ってもらえるよう、今回思い切って応募させていただきました。昨今、雑穀の後継者問題が深刻になりつつあります。いつ徳島産の雑穀がなくなってしまうか分からないという、今の状況を改善するために、これからも頑張っていきたいと思っています。

子どもがいるからチャレンジできる、 子どもがいるから輝ける!!

平成19年3月6日、ベビーさろんかしの木は、認可外保育施設としてオープンしました。その当時、子供たちは1歳8ヶ月。一生の土台となる時期を大切にしながら、愛娘たちと一緒に過ごせる職場を作りたいと、開園を決意しました。

ベビーさろんかしの木では、生後3か月～6歳までの異年齢保育を行っており、朝7時から夜8時までの長時間保育・一時預かりを実施しています。離乳食とアレルギー食にも対応しており、こども未来財団の「こどもの栄養」という月刊誌で、かしの木の食育の取り組みが連載された事もあります。

保育園の仕事は奥深く、勤務時間内で結果を出すのは、非常に困難です。しかし、幼い時の経験は、成長した子供たちが結婚して産んだ子、つまり孫に出るものです。先の長い話ですが、私はそれを見据えた活動に取り組んでいます。去年はサツマイモの苗つけ、稲刈り、干し柿作りといった自然との触れ合いや、その地域の方との交流など、色々な事にチャレンジしました。普段仕事と家事でいっぱいになって疎かになりがちなものも、子供たちに体験させてもらって有り難いと、保護者の方から嬉しいお声をいただいております。

また、毎月一回、親子の触れ合いイベントとして、かしの木まつりを実施しています。コミュニケーションを大切に考えたこのかしの木まつりでは、外部からの交流が図れるようになっています。子育てをしながらの仕事は、確かに大変です。スタッフの中にも、子育てをしながら一緒に空間で仕事をしている方もおります。が、子供がいるから我慢するのではなく、子供がいるからこそチャレンジ出来る事、輝ける事が沢山あるのだと、子供たちの笑顔に気付かされ、今では持続性のある前向きな精神で物事を考えられるようになりました。

これからも「三つ子の魂百まで」という言葉を胸に、親と保育士の両方の視点から、皆様の子育てのお手伝いをさせていただきたいと思っております。

NHK
徳島放送局
局長賞



ベビーさろん かしの木園長 橋口 浩子さん

●受賞の喜びとこれからの活動
皆様、本当にありがとうございます。私らしく生きたい、私らしく子育てしたいという思いで胸がいっぱいです。いくら感謝しても、感謝しきれません。これからも自分の子供達と共に、徳島のために精一杯努力していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

四国
放送賞



エアラインクラブ徳島代表 市原 香奈さん

●受賞の喜びとこれからの活動
このような素晴らしい賞をいただき、真にありがとうございます。このような賞をいただいたのも、私のわがままで始めたこの仕事を応援してくれている、家族や友人の支えがあってこそだと思っています。春から新たに、お子様に英会話を教えるという仕事を始めます。この賞を励みに、これからもまた頑張っていくと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

「徳島でもできるんだ!」と子どもたちが自分の可能性を信じられる環境づくりを目指して。

私は徳島県で生まれ育って、大学時代を神戸で過ごし、その後、新卒で大手航空会社のグランドスタッフに内定、関西国際空港の国際線担当として勤務しておりました。しかし約5年前に父を亡くし、それをきっかけに自分の人生について深く振り返った私は、生き方を考え直しました。当時23歳でした。徳島に戻ってからは、ブライダル、放送業界、金融業界と色々な仕事を経験し、あらゆる視点で徳島を見つめ直しました。そして、子供の教育に関わる、自分の経験を活かせる、地域に恩返しをしたい、人に喜んでもらえる仕事がしたいという思いが強くなり、徳島初のエアラインスクール開校に至りました。都会には沢山のエアラインスクールがありますが、徳島にはない＝エアライン就職活動へ対策ができずに苦しんでいる方がいるということ。当クラブは、その方たちの学びの場として設立いたしました。

私はいつも、「就職はゴールではない」と学生の皆様に伝えています。就職はあくまでも、人生におけるひとつの大きな決断であって、それをゴールにしてしまうと、入社した後には何らかのトラブルを招く危険性があると思っています。そのため、クラブに入った学生の方の中で、その方にとってエアラインがベストではないと分かれば、他の道をサポートしています。

実際のレッスン内容ですが、少人数制による細やかな指導を行います。そこから何度も実践をして、本番を見据えた模擬面接を行い、最後には徹底的に振り返ります。これを繰り返す事によって少しずつ出来る事が増え、自分に自信を持てるようになり、人として成長していきます。

また、大学でも講義を行っています。しかしこちらはエアラインを目指す方々だけではなくありませんので、接客・サービス業にフォーカスを当てたトレーニングで、皆様の就職対応能力の基礎の底上げを行い、一般企業を目指している学生の皆様にとって活用的で、結果の出るレッスンを行うようにしています。

今後の目標ですが、子供たちが未来に向けて夢を持てる環境作りをしていきたいと思っています。学生の皆様に将来の夢について問い掛けると、「分かりません」や「夢はないです」という答えが返ってきます。夢を持ってない若者や、自分で夢を語る事が怖い若者が多いのだと思います。これはとても悲しい事です。現在は就職氷河期と言われていますが、時代や環境は関係なく、努力・成長を重ね、自分に自信を持つことが大切です。子供たちが夢を見られて、きらきらとしたきらめく徳島となるよう、お手伝い出来ればと思います。

若者へ伝えたいこと「一生ものの資格を持ち、 プライドと感謝の気持ちをもって一生働く」

応募テーマは「私がこんなに仕事を頑張れる理由は、看護師としてのプライドです」。現職は徳島市介護認定審査会委員12年目です。他に地域のボランティア活動を積極的に取り組んでいます。私は徳大付属病院に6年間勤務、育児と大学進学のため、退職。その後、職場を変えて48年間働き続けています。60歳で、県立看護学院を定年退職。それからの私は、看護職の地位の向上に努める事を目標に、尽力いたしました。平成13年、感動的な場面がありました。保健婦、助産婦、看護婦の「婦」が、「師」へと議員立法で可決・成立いたしました。現在、医療の現場に行きますと「看護師さん」と呼ばれている後輩を見ていて、私達が願ったような良き時代が来たと言っています。介護サービス制度の始まった当初、施設の中で介護を受けている人が多かったのですが、現在では住み慣れた自宅で、介護サービスを受ける傾向にあります。在宅介護サービスは国の方針とあいまって、今後益々増えていくでしょう。長寿は本来嬉しい事ですが、歳と共にガタがきて、医療費や介護の費用が沢山掛かります。では、どうすれば少しでも抑制出来るか？それは、元気で自立した高齢者を増やす事だと思っています。私が会長を務める佐古地区健康クラブでは、運動、食生活、認知症予防の3つを根幹にした活動をしています。人気のあるウォーキングの他にも、伝達講習の調理実習やエコノミー症候群の予防体操、認知症予防の講演など、様々な企画を工夫を凝らして開催しています。参加者が人と繋がって、笑顔で健康な暮らしを送れるように、日頃より努力を重ねています。一方、婦人会活動では定期的に国道の街路清掃を行い、佐古地区の環境美化に努めています。

現代を生きる若者へ「一生ものの資格を持ち、プライドと感謝の気持ちをもって一生働く」という言葉を贈ります。働くには専門知識が必要です。加えて、沢山の人と人間関係を築き上げなければ、社会ではやっていけません。阿波弁で働くとは、はたを楽にする。はた(傍)とは、自分の周囲の人の事です。これからこの身体を使って、知恵を働かせながら、仲間と一緒に力を合わせて生きていきたいと思ます。



あきんど
塾賞

看護師 滝花佐智子さん

●受賞の喜びとこれからの活動

後期高齢者がこのような場に迷い込んできたような気がしていたのですが、応援団の皆様のおかげで特別賞までいただきました。会場に足を運んでくださった方、ありがとうございました。これからも皆で力を合わせて、健康クラブと婦人会活動をますます盛んにしていきます。

あきんど
塾賞



大塚国際美術館
企画・広報部 係長

土橋加奈子さん

●受賞の喜びとこれからの活動

受賞の言葉 ありがとうございます。今日この場に立ち、徳島で活動されている8人の素晴らしい女性達と知り合えた事を、とても嬉しく思っています。大塚国際美術館が唯一無二の美術館になるように、これからもチーム一丸となって頑張っていきたいと思ます。

美術館は決して敷居が高いものではなく、 日常気軽に行ける魅力ある空間だと考えます。

私は大塚国際美術館で、イベントを担当しています。私の所属する企画・広報部では、理事を筆頭に広報、ライダル、教育普及とデザイン、そしてイベント担当である私の6人全員が、女性のスタッフで活躍しております。

大塚国際美術館は1998年の3月21日、世界初の陶板名画美術館としてオープンしました。大塚グループ創立75周年の記念事業として地元徳島、鳴門への恩返しという事で、創業の地の鳴門に建てられております。世界25ヶ国190余の名画、ヴァチカンにあるシステリーナ礼拝堂や、イタリアのパドヴァにあるスクロヴェニ礼拝堂などを、原寸大で展示している美術館です。

絵画展示だけでなく、季節感のある催しや音楽コンサート、演劇、美術講座、子供プログラムやライダルといった様々なイベントを行っています。

そして新たな魅力の発信という事で、2009年からは「システリーナ歌舞伎」に取り組んでいます。2011年は、石川五右衛門をテーマとした公演を行いました。歌舞伎の特長としましては、和と洋のコラボレーション、それから新作の初演であるという事、地元からの共演という事で、普通の歌舞伎では出来ない感動、つまりこの美術館ならではの歌舞伎を楽しんでいただけます。

何故このようなイベントを行っているかと申しますと、絵画に興味がない方、美術館に行きたいけれど敷居が高そうだと思ってらっしゃる方、常設展示なので展覧会がないという方に、美術館を訪れるきっかけ作りのためです。美術館の新たな魅力を発信して、永未く親しまれながら徳島の地域発展に繋がるようにと、様々なイベントに取り組んでいます。

現在の美術館の役割としましては、資料収集に保存、調査と研究、それから展示や教育普及といった役割がありますが、今後はそれにプラスして、楽しむという機能の充実が求められるのではないかと思います。今後も大塚国際美術館でアートな一日を過ごしていただくために、様々なイベントを企画いたしまして、美術館に来て良かった、楽しかったと思っていたいただけるような取り組みを行っていきたく思ます。

皆様の役に立ち、また楽しんでいただけるイベントや地域を元気にできるようなイベントを開催していきます。

NHK徳島放送局で、イベントの仕事をしていただいております。放送局で「イベント」と言いますと想像しにくいかもしれませんが、公開番組や、未来を担う子供たちを対象とした教育イベントなど、年間約20本のイベントを実施しています。最近では、県内の小学生に徳島局に来ていただき、実際にみんなで番組を作る「NHK放送体験クラブ」を行いました。

NHKはご存じの通り、皆様から受信料を頂戴しております。そんな皆様にNHKやNHKの番組を身近に感じていただけるよう、イベントを実施しています。今回はその中でも、徳島の地域課題をテーマに企画したイベントをご紹介します。

着目した地域課題とは、糖尿病死亡率がワーストというとても深刻な問題です。糖尿病は生活習慣病です。不規則な生活だけでなく、偏食は糖尿病を引き起こす要因の大きなひとつです。そこで食生活を守る女性の皆様に、負担を掛けずに日々糖尿病予防が出来る新レシピを紹介するイベントを企画いたしました。ゲストのグッチ裕三さんと、日本料理店三代目 田村隆さんに徳島の豊かな幸を使った、ヘルシー且つボリュームのある料理を教えていただきながら、絶妙なやり取りが盛り込まれた料理ショーを開催しました。当日参加したお客様からは、前向きなご意見を頂戴する事が出来ました。このイベントを通して、「楽しみながら」糖尿病の予防を意識していただけたのではないかなと思う次第です。

私は平成20年にNHKに入局してから4年間、イベントの仕事をしてまいりました。短い期間ではありますが、この仕事を通して実感した事があります。それは、人と顔を合わせる事の大切さです。メディアが様々な形に発達している今、わざわざイベントに向かうのは面倒くさいと感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、イベントは人のぬくもりを感じる事が出来ます。あるイベントに参加されたお客様から「今日のイベントで寝たきりの生活から飛び出して、久しぶりに外へ出た。今日はとても楽しく、涙が出る程嬉しかった」という言葉を頂戴した事がありました。その言葉は私にとって一生忘れられない程うれしいお言葉でした。これからも、少しでも多くの県民の皆様にお楽しみいただけるようなイベントを、開催していきたいと思っております。



あきんど塾賞

NHK徳島放送局 放送部 編成・事業 平田 桂さん

●受賞の喜びとこれからの活動

本当にありがとうございました。初めての経験でもとても緊張しましたが、とてもいい経験になりました。NHK徳島局には2年間いますが、この賞によって、徳島県の皆様のパワーを更に感じさせていただけました。これからも情熱的な皆様と共に、徳島を盛り上げていきたいと思っております。



▲宮崎さん(右側)。左側はサポートスタッフのひとり同僚の福山郁子さんです。

四国化工機株式会社 食品事業本部 事業経営企画室 営業企画グループ お客様相談室担当 係長 宮崎 稔子さん

●受賞の喜びとこれからの活動

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回事業所の皆と一緒に、プレゼンの資料作りから内容を考えましたが、それにはとても大きな意義があったと思っています。

男性社員の多い中、日本の伝統食品である豆腐を女性の力でこれからも皆様に伝えていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願っています。

女性の日常的な視点を活かし、便利で安心して美味しいと思える商品づくりを目指します。

あきんど塾賞

私たちが勤務しております四国化工機グループをご紹介します。

四国化工機は1961年に創業、50周年を迎えます。機械事業、包装資材事業、食品事業の3つの事業があり、その全てが食品に携わる会社です。そして私たちが所属している食品事業部は、豆腐・油揚げ・惣菜などの大豆加工食品を、安全・安心・おいしさにこだわって製造しています。この商品を「さとの雪」ブランドとして販売しているのが、さとの雪食品株式会社です。

さとの雪食品は直営店舗を持っておらず、商品はスーパーや生協様を通じて全国の皆様にお召し上がりいただいているため、私どもでは直接お客様のお声を聞く機会が乏しい事に問題があると感じていました。また、社員やお取引先バイヤーも

男性が多く、新商品の開発や既存商品の改善検討の際に、豆腐の主な購買層である女性の考えとかけ離れた議論がなされていると感じたことも多々ありました。

そこで当社から情報を発信し、お客様の声を寄せていただく仕組み作りと、主に女性である消費者目線での商品の改良・提案を女性社員協力の下、進めてまいりました。

一例として、①HPを明るく見やすく全面リニューアルし、鮮度ある情報の発信、②お客様相談室を設置し、お客様のお声からの商品改善やお申し出の再発防止、③主婦の視点でのメニュー開発と商品・季節ごとに最適なメニュー提案、④食育をテーマに子供向け販促物作成や豆腐づくり指導がございます。

これからも女子力全開で日本の食文化を豊かにしていきたいと思っております。



AWAおんなあきんど塾主催 【第2回 きらめく女性大賞】を振り返って



AWAおんなあきんど塾
平成23年度リーダー
オートクチュール板東 代表

板東美千代

●さすが2回目。着実に進歩しています!

昨年に続き2回目とあって、反省などを踏まえたうえで、より良いイベントとなるよう、数か月前からスタッフ達は様々な準備をまいりました。スタッフはあきんど塾のキャストと市職員のメンバーです。きめ細やかで的確なサポートのおかげで、運営はスムーズに進みました。皆様の協働に感謝です。

そして、仕事の傍らボランティアでここまでの会を成功させたAWAおんなあきんど塾キャストは、自画自賛となりますがさすがです。これからも、きらめく女性の代表として、皆様の目標となるよう努力していく所存ですので、どうぞご支援ください。

●最終選考会プレゼンテーションの完成度に感動!! 今回は24組のご応募があり、その中からの一次選考通過者9組が行った8分間のプレゼンテーションは素晴らしいものばかりでした。

すべてが確実に進化し、成長していると実感いたしました。

また、徳島を代表する方々が審査委員として来てくださり、当会に花を添えてくださいました。出場者もさぞ力が入ったことと思います。

徳島には、まだまだきらめく女性がたくさんいます。このきらめく女性達が当会に参加することは、いろいろな方の活躍や仕事の内容を知り、ネットワークを広げるチャンスでもあります。この会を通じて、更なるご発展を期待しています。

●次回に向けて!!! 「第3回きらめく女性大賞」はどのように進化していくか楽しみです。働く女性の皆さん!たくさんの応募をお待ちしています。そして、多くの皆様に会場に足を運んでもらえるよう広くお声掛けし、当会が徳島の働く女性の交流の場としてご利用いただけるよう、進化させていきたいと考えています。

最後に、今年度AWAおんなあきんど塾は、4月の「東日本大震災復興応援チャリティーバザー」に始まり、5月に「宮城・仙台復興応援物産市」、12月に「KIZUNAフェスティバル東北物産市」と被災地の応援ができましたこと、キャスト達や、市職員の方々、またご協力いただきました関係各位の皆様との絆を深めることができましたことに感謝申し上げます。

▲第2回きらめく女性大賞受賞者の皆さんとAWAおんなあきんど塾キャスト、津軽三味線演奏会で迫力のある演奏を聴かせていただいた戸村恵里さんをお交すの記念撮影。第3回開催への思いを新たにしました。

interview No.19

interview
guest

津軽三味線 高橋静山流
静山会 師範

戸村 恵里さん

とむら えり



E r i T o m u r a

プロフィール ●とむらえり ●2002年:県立名西高等学校音楽科入学、津軽三味線のライブを見て興味を持つ ●2003年:高橋静山氏に師事(16歳) ●2004年:津軽三味線 高橋静山流名取(17歳) ●2005年:専門学校穴吹カレッジ美容科入学 ●津軽三味線 高橋静山流 師範(18歳) ●2006年:民謡を始める、民謡四国大会ヤングの部優勝等多数授賞 ●四国放送、NHK徳島、AMラジオ、FMラジオに多々出演 ●2007年:穴吹カレッジ美容科卒業 ●天水連で三味線も弾いています。

各地方のお祭りやお座敷、また、慰問活動でお年寄りの前などで弾いています。真剣に聴いていただけるのもうれしいのですが、音楽・演奏はエンターテイメントだと思っているので、演奏だけではなく津軽や徳島の民謡も唄ったり、しゃべり(トーク)も取り入れています。観客の皆さんの素敵な笑顔が見られて、観客の皆さんと一体になった瞬間が、津軽三味線をやって喜びを感じる時です。

●これからの夢は具体的にありますか?

とりあえずの目標としては、30歳までに自分の教室を開いて小さい子どもたちに教えたいです。徳島での津軽三味線の演奏者を増やし、三味線の文化を広げて身近なものにして、特に若い世代が私の演奏を聴いてノリノリで踊りだすくらい環境がくれたら最高ですね!!そしてこれは本当に私の夢なのですが、その中から本場津軽の三味線の全国大会で優勝するような子が輩出できればうれしいです。

●取材を終えて

とても元気で、魅力ある語り口の戸村さんの話を聞いていると、思ったより三味線って自由で、堅苦しいものではないのだと感じました。私も三味線に対してすごく親近感がわいてきました。

小さいお子さん～おじいちゃん、おばあちゃんまで津軽三味線が浸透していけばうれしいです♪

●津軽三味線を始めるようになったきっかけと魅力は?

小学生の時からピアノとトランペットを習ってまして、音楽に興味はずっとありました。16歳の時に初めて生の津軽三味線の演奏を聴いた時に、凄く衝撃のある音でしたので私もやってみたくて興味を持って、高橋静山先生に師事して現在にいたっています。

活動は徳島を拠点として主に四国や関西地方でパーティやイベント、

AWAおんなあきんど塾 キャスト



(株)クラッシュ 代表取締役
植田貴世子



(株)あわわ 代表取締役社長
坂田千代子



(有)ケイトップス 代表取締役
高岡 慶子



モンド・ジャコモ(有) 代表取締役
高木 博代



(株)ときわ 代表取締役専務
高畑富士子



(株)ココア堂 代表取締役
立川 真季



(有)新屋バイオ花き研究所 代表取締役
新居 洋子



(有)アンモテルエージェンツ 代表取締役
青江 文



プライベートアトリエ 代表
今城 実紀



(株)ひまわり 常務取締役
HAIRZ沖浪店ディレクター
大岩 明代



(株)立本写真館 常務取締役
立木 さとみ



カラープロデュース コリ代表
福永由里子



オートクチュール板東 代表
板東美千代

きらめく女性大賞のホームページができました。 awaonna-akindo.com/kirameku/